

パチンコ関連機器市場に関する調査結果 2010

【調査要綱】

矢野経済研究所では、次の調査要綱にてパチンコ関連機器市場の調査を実施した。

1. 調査期間：2010年5月～7月
2. 調査対象品目：パチンコ機・パチスロ機等の遊技機、その他パチンコ周辺機器
3. 調査対象企業：パチンコ機メーカー、パチスロ機メーカー、遊技場関連機器メーカーなど
4. 調査方法：当社専門研究員による直接面談、電話・e-mailによるヒアリング、ならびに文献調査併用

【調査結果サマリー】

◆ 2009年度におけるパチンコ関連機器の市場規模は1兆3,654億円、前年度比102.7%

2009年度のパチンコ関連機器の市場規模は1兆3,654億円となり、2008年度比で102.7%、354億円増と、僅かにプラス成長となった。パチスロ機市場、周辺機器市場はともに市場規模の縮小傾向が続いたが、パチンコ機市場の拡大が市場全体の成長を下支えする格好となった。

◆ 堅調なパチンコ機市場、しかし遊技機価格の上昇は懸念材料

2009年度のパチンコ機市場は、販売台数こそ前年度比で減少したが、販売額は逆に増加し、遊技機1台あたりの価格上昇が目立っている^(注)。だがその反面、パチンコホールの業況は厳しさを増しているため、購入する新機種を厳選する動きも見られる。したがってパチンコ機に関しては、今後、販売台数の減少傾向がさらに強まるとみる。(注：パチンコ機の市場規模をパチンコ機販売台数で除算した場合であり、全遊技機の実際の販売価格の平均値について言及するものではない)

◆ 周辺機器部門は継続して縮小、新製品が「頼みの綱」となるか

周辺機器における2009年度の市場規模は前年度比98.2%と微減で推移。「各台計数機」^(注)の市場浸透が急速に進み、また、パチスロ機部門の業績が改善の傾向にあることから、台間メダル貸機などの設備が業績を伸ばす。しかし依然としてホールの新規出店動向は鈍く、しばらくは微減傾向の市場トレンドになるだろう。(注：遊技台ごとに出玉カウントをする設備。大量の予備玉が不要になり、玉箱積も行わない。)

◆ 資料体裁

資料名：「2010年版パチンコ関連メーカーの動向とマーケットシェア」
 発刊日：2010年7月30日
 体裁：B5判 504頁
 定価：110,250円（本体価格105,000円 消費税等5,250円）

◆ 株式会社 矢野経済研究所

所在地：東京都中野区本町2-46-2 代表取締役社長：水越 孝
 設立：1958年3月 年間レポート発刊：約250タイトル URL：<http://www.yano.co.jp/>

本件に関するお問合せ先（当社HPからも承っております <http://www.yano.co.jp/>）

（株）矢野経済研究所 営業本部 広報宣伝グループ TEL：03-5371-6912 E-mail：press@yano.co.jp

本資料における著作権やその他本資料にかかる一切の権利は、株式会社矢野経済研究所に帰属します。
 本資料内容を転載引用等されるにあたっては、上記広報宣伝グループ迄お問合せ下さい。

【 調査結果の概要 】

2009年度におけるパチンコ関連機器の市場規模は1兆3,654億円となり、2008年度比で102.7%、354億円のプラス成長であった。パチンコ機の市場拡大が主な要因であるが、その他、台間メダル貸機、呼出ランプにおいても前年度を上回る結果であった。

2004年に施行された風俗適正化法・遊技機規則改正に基づく射幸性の大幅な規制により、パチスロ機の収益性が著しく低下、それを契機に「パチンコ業不況」が本格化した。そして、この数年間、パチンコホール、遊技機メーカー、周辺機器メーカー、多くの企業に大きな打撃を与え続けてきた。2009年度は、パチンコ機が市場を底上げしたが、販売数量は減少しており、販売単価の高騰が補填した形となっている。つまり、本質的に「回復」したとは言えないのが実態だ。

また、パチンコ機については比較的射幸性の高い機種が数多く発売されていったため、パチンコの投機的性質が強まる傾向となり、その結果、投資額の多さについていけなくなった遊技客の「新台離れ」も散見されるようになり、パチンコ機の稼働が伸び悩む傾向も出てきた。パチンコ産業において最後の牙城とも言えるパチンコ機市場だったが、危機はすぐそこに迫りつつある。

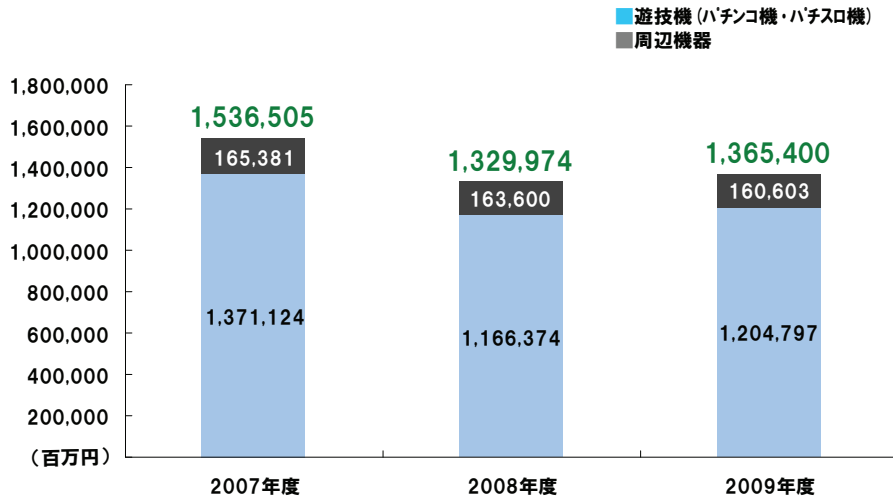
とはいえ、今後に向けての好材料がない訳でもない。遊技機部門においては、パチスロ機関連の回復がそれである。パチンコホールでは射幸性抑制後のパチスロ5号機移行後、パチスロ機での極端な稼働低迷、売上利益減少に悩まされ、「パチスロ減台・パチンコ増台」で何とか苦境を凌いできた。しかし、2009年後半あたりからパチスロ機の業績が徐々に好転し、それに伴い、以前のように5万台以上のヒット機種もいくつか登場してきたのである。だいぶ時間はかかったが、パチスロ5号機、とくに液晶搭載機の製品完成度が向上し、パチスロブームに沸いたかつてのパチスロ機に似たゲーム性を再現する機種も登場し始め、一部のホールではパチスロ機の設置台数を再び増加させる動きが目立ってきている。

また周辺機器部門を見ても台間のメダル貸機市場が微かではあるが特需に湧くなど、遊技機以外への波及効果もあったようである。この傾向が「一過性のものでなければ」、であるが、次年度の調査では、明確に販売額や販売数量の増加といった、数値結果に現われるものとする。

周辺機器部門においては、新ジャンルである「各台計数機」が好調である。長らく画期的な新製品が登場していなかった周辺機器部門において、徐々に期待ができる製品だろう。当製品を導入することで、従来の出玉訴求型の営業スタイルから、遊技の利便性、快適性に重点を置いた遊技環境重視型の営業スタイルへとシフトできる可能性があり、出玉を雑多に積上げて盛況感を演出する、と言った旧来からのパチンコ店の雰囲気を持拭できる。整然とした店内に、遊技者は大きな変化を体感するであろう。

これまでに引き続き、今後もさらに企業再編は断続的に続くだろう。各社、生き残りを賭けて製品分野・得意分野を広げ、「死角なき事業戦略」を模索しながら、来たる市場回復の時期を待つ。前述したような好材料は、市場回復の決め手とは決して言えないが、懸念材料しか見当たらなかったここ数年の状況からすれば、回復の兆しとは言えないまでも、底を打った感は確かにある。だが、冒頭の「パチンコ業不況」も沈静化に向かいつつあるとは言え、決定打に欠け、今後しばらくは「縮小均衡状態」が続くものと予測する。

図1. パチンコ関連機器の市場規模推移

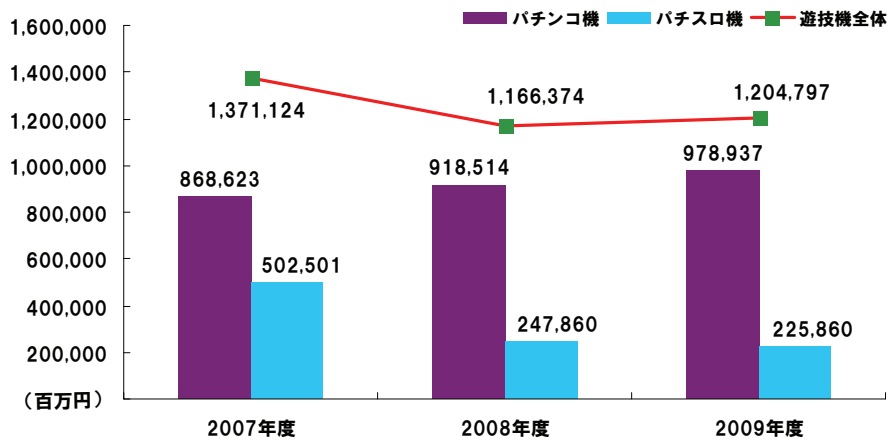


矢野経済研究所推計

注1: メーカー売上ベース

注2: カテゴリの追加により過去に遡って市場規模を修正した

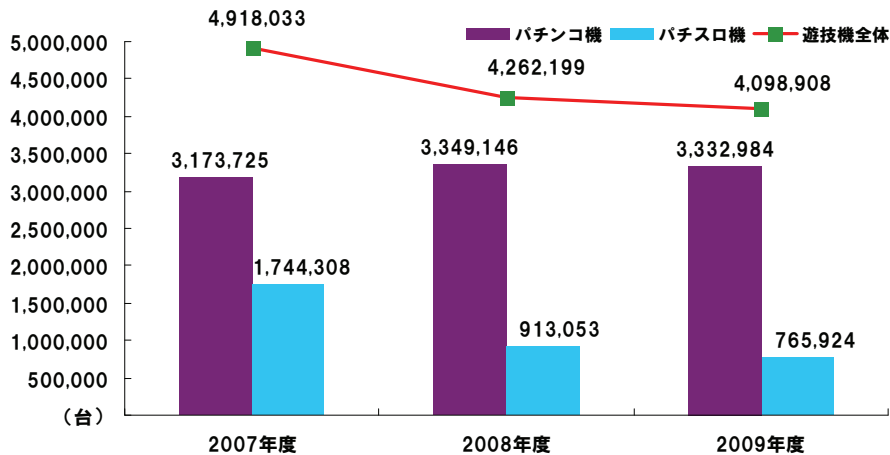
図2. 遊技機市場規模 (新台販売額) の推移



矢野経済研究所推計

注3: メーカー売上ベース

図3. 遊技機販売台数 (新台販売台数) の推移



矢野経済研究所推計

注4: メーカー出荷ベース